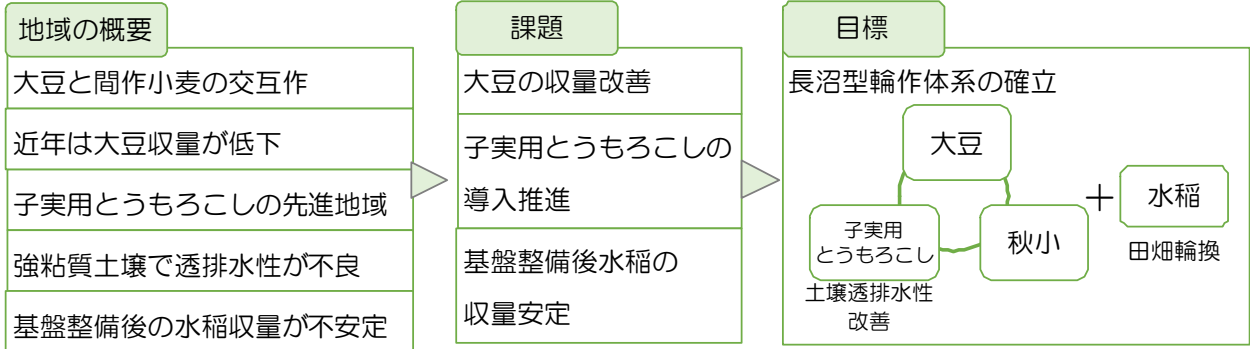


課題番号 15

土地利用型作物導入による生産基盤の向上

～ 輪作で築く持続可能な長沼農業 ～
対象：長沼町25区（9戸）

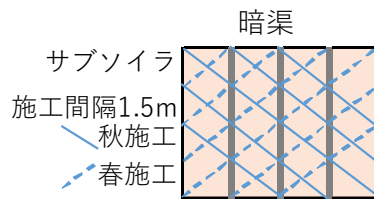
1 活動の背景



2 活動の経過

大豆品質・収量の向上

基盤整備後、水田後に作付けする2戸を対象を絞った。
透排水性改善に向けて技術普及室と連携し、サブソイラによる「密がけ」を提案。



「密がけ」の施工概要



根粒菌数に応じた追肥を提案

基盤整備後の生産性向上（水稻）

基盤整備後の施肥を農業者と検討・設計。
技術普及室・試験場と連携し、培養窒素を測定。適正窒素量を検証。



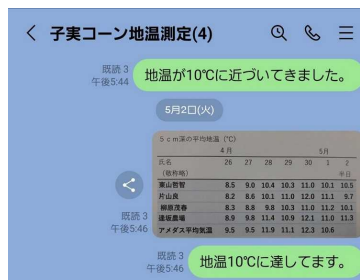
調査結果から追肥の要否を判断



試験場で培養窒素を測定

新規作物の導入・定着

栽植本数の確保に向けて、基本技術の励行、地温10℃以上のは種を推進。
子実用とうもろこしの作付けが土壌にもたらす影響を調査し、作付けの有効性を示した。



SNSによる地温情報提供



土壌透排水性への影響を調査

3 成果の具体的内容

大豆品質・収量の向上

収量向上対策実施戸数（目標2戸→実績2戸）

	透水性(mm/h)		成熟期	
	は種前	生育中	茎長 (cm)	葉数 (枚)
F氏 (基盤整備後)	624	123	68.8	8.2
I氏 (水田後)	5	132	47.9	7.8
(参考) I氏秋小後	40	116	43.5	7.8

	根粒菌数 (個/本)	追肥窒素量 (kg/10a)	子実重 (kg/10a)
F氏 (基盤整備後)	69.6	なし	442
I氏 (水田後)	16.6	10	294
(参考) I氏秋小後	24.2	5	264

2戸とも密がけを実施。透排水性の目標100mm/h以上を確保

根粒菌数に応じて追肥を実施。収量を確保。

I氏の声

密がけは効果があったと思うよ。水がたまらないからね。有機物を入れるために春小の後に緑肥を播いたよ。



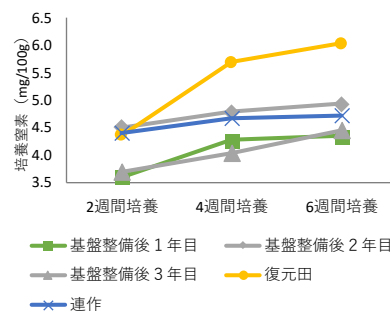
基盤整備後の生産性向上

施肥改善実施戸数（目標5戸→実績5戸）

栽培法	標準植	疎植	疎植
基肥施肥率	75%		
幼形期茎数	469	153	195
窒素追肥量	-	1	1
成熟期穂数	500	507	483
倒伏程度	無	無	無

※E氏の基盤整備後1年目ほ場、品種「ななつぼし」

※茎数・穂数：本/m²、窒素追肥量：kg/10a



F氏の声



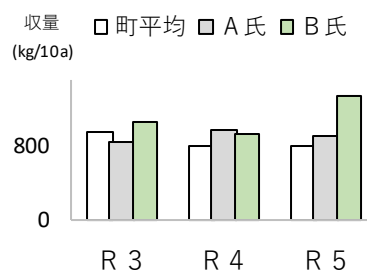
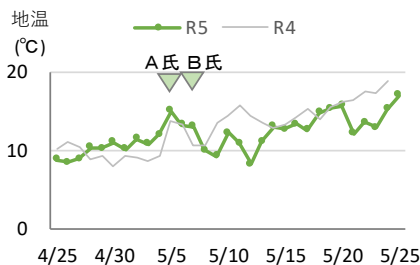
今まで、基盤整備後ほ場の施肥量は曖昧だったが、分析値を実際に見せてもらったことで納得できた。来年度以降の参考にしたい。

茎数が少ないほ場には追肥対応。自身で設計した施肥窒素では少ないことが農業者に理解された。

培養窒素の発現をパターン化。基盤整備後1年目ほ場の基肥施肥率を75%から80~85%とした。

新規作物の導入・定着

基本技術実施戸数（目標2戸→実績2戸）



2戸とも基本技術を実施。地温の上昇を確認しては種。

発芽率9割以上を確保し、収量は町平均を上回った。

とうもろこしの根を80cm深まで到達。みず道となることを確認。

4 今後の課題と対応

- 大豆品質・収量の向上、基盤整備後の生産性向上：一般活動として波及
- 新規作物の導入・定着：新規作付者2~3名の収量確保に向けた支援継続